

加齢や疾患に伴う身体状態の特性について

[通所リハビリテーション体験用]

加齢や疾患に伴う身体状態として以下に示すような特性があります。ご不明な点がございましたら、ご質問いただきますようお願いいたします。

1. 加齢や疾患によって、環境の変化（場所、生活のリズムなど）に対する適応力が低下する場合があります。慣れない体験利用時は不安や緊張などがあるため、精神的に不安定になったり症状が悪化したりすることがあります。
2. 加齢などに伴い骨量が減少し（骨粗鬆症、カルシウム不足など）、骨が弱くなっていることがあります。そのため転倒や打撲でも簡単に骨折される場合があります。特に大腿部の骨折が多く、寝たきりの原因になることがあります。
3. 疾患について、とりわけ脳血管障害やパーキンソン病等がみられる場合は、嚥下機能（食べ物を飲み込む機能）の低下がみられ、誤嚥（食べ物が気管支に入ってむせる）により生命の危機にさらされてしまうことがあります。特に認知症を有される場合は、無理やり口に詰め込んで食べようとして食物を口へ押し込んでしまうことがあり、誤嚥や窒息などの危険性があります。
4. 状態によっては夜間せん妄（意識水準が夜間に低下し、錯覚、幻覚が見られ落ち着きがなくなる）が起りやすく、これを軽減させるための薬を服薬される場合があります。ただこれによって個人差はありますが、足のもつれやふらつき、血圧の低下をきたし、転倒などの原因になることがあります。

事故等が起こらないよう、細心の注意をはらって日常的な支援を行っておりますが、限られた職員、施設、設備で運営を行っている以上、支援には限界があります。体調不良やその他で体験利用継続が難しいと判断される場合には、体験利用申請書・同意書に定めている通りの対応をさせていただきますのでご了承ください。

上記についてご理解をよろしく申し上げます。